

2016年度学院留学 研究成果概要

種 別：学院留学（短期）

所属・職・氏名：商学部・准教授・禪野美帆

研究課題：

都市内部の旧村落に関する文化人類学的研究：メキシコの事例を中心に

留学期間：2016年9月2日～2017年3月12日

留学先：メキシコ・メキシコ市

メキシコ国立自治大学人類学調査研究所

メキシコの首都メキシコ市には二種の「先住民」が存在する。ひとつは他州の先住民村落から移住して来た人々、そしてもうひとつは、メキシコ市の行政区分の変化や拡大にともなって都市内部に取り込まれた旧先住民村落の人々である。報告者は、単著として発表した前者の研究（禪野：2006）につづいて、現在は、後者を対象として研究を行っている。報告者の専門分野である文化人類学では、資料がほとんどない地域や現象を取り上げることが多いため、ひとつのテーマが完結するのに10年以上かかるのは珍しいことではない。

メキシコ市内に位置するかつて先住民村落だった、そして現在ではその地理的境界線を失って市街地となった地区を指して、今世紀に入って「プエブロス・オリヒナリオス（pueblos originarios）」という名称が、特にメキシコ国内における文化人類学や民族学の分野で使われるようになった。さらに、メキシコ市政府や新聞などもその用語を使うようになり、2016年の時点ではすでに用語の使用が定着している。プエブロス・オリヒナリオスの数としてモラの著作では291という数字があげられている（Mora 2007: 28）。報告者はこれまで約30のプエブロス・オリヒナリオスを観察した。

今回の留学中に、特に集中的な調査を行ったのは、ラ・マグダレーナ・コントラス区（Delegación La Magdalena Contreras）の、サン・ヘロニモ・リディセ地区（San Jerónimo Lídice）およびサン・ベルナベ・オコテペク地区（San Bernabé Ocotepéc）である。前者の特徴は、一般に外来者が経済的に裕福で、他州の農村から流入したような居住者はいないことである。エチェベリア前大統領の自宅もある高級住宅地と変貌したこの地区は、おもに自称「地元民

(originarios もしくは nativos)」によって、地区の名前の変更が要求されている。まず「区」である colonia をやめ、「村」を意味する pueblo にすること。また、1942 年までは使用されていたナワトル語起源の地名である Aculco を現在の地名に足すことである。つまり、Pueblo San Jerónimo Aculco Lídice とすることである。2016 年 10 月にその要求をめぐるメキシコ市政府側と地区住民の集会があり、その後投票によって地名が公的に変更された。しかし地名の変更はあくまでも「選挙区の単位」だけだという。

居住者はなぜ地名の変更を主張するのか。申請者の観察によれば、その理由は、「村的な」環境の保全を求めることにある。つまり、近隣に高速道路やショッピングセンターが建設され、交通量が増えることに反対している。さらにもうひとつの理由としては、都市開発が進むことによって、固定資産税が上がることにも反対しているのである。自称「地元民」の多くは裕福とは言えず、高い固定資産税の支払いに不満を感じている。

2018 年に大統領選とともに、メキシコ市長、市内の区長すべての選挙が行われるが、居住者による「村」としての権利拡大の要求と、政党による選挙運動が結びついていくことが想像される。

もうひとつの調査地、サン・ベルナベ・オコテペク地区に関しては、隣接する共同利用地に位置する先スペイン期のピラミッドをどのように管理し、また経済的・文化的な資源として利用しているか調査した。

ピラミッドは 1990 年代後半に政府の研究機関によって一部復元され、その周辺には遺物の展示室も作られた。しかしそれだけでなく、パーティなどに使用できる多目的サロンを併設し、子供の遊具も置き、「遺跡公園」として近隣居住者が運営している。しかし遺跡自体はあまり丁寧に管理されてはいない。聖週間の時、イエスの受難劇が行われるが、磔の場としてピラミッドの上が利用されている。その時、大勢の見学客がかなり乱暴に遺跡の上に乗っているのである。結局のところ、住人にとっては植民地時代以来の歴史によって根付いたカトリックのイベントの方が大事であり、先スペイン期の遺跡はそれを演出する場になってしまっている。

この報告書で記した現象については今後も継続的に調査を進めていく。

研究成果の公表としては、以下の論文発表および口頭発表を行った。

論文

「メキシコ市内旧先住民村落におけるカトリックの祭礼をめぐる統合と対立」
『商学論究』64巻6号, 2017年3月.

口頭発表

El sitio arqueológico como recurso económico y simbólico de un pueblo originario de la Ciudad de México. en Homenaje a Andrés Medina, 2016年10月18日, IIA-UNAM.

El sitio arqueológico y la creación de identidad: Una mirada a la Ciudad de México y Osaka, Japón. en Seminario permanente Etnografía de la Cuenca de México, 2017年3月2日, IIA-UNAM

引用文献

Mora V., Teresa (coord.) 2007 *Los pueblos originarios de la ciudad de México: Atlas etnográfico*. México, D. F.: INAH / GDF.

禪野美帆 2006 『メキシコ、先住民共同体と都市 -都市移住者を取り込んだ「伝統的」組織の変容-』東京: 慶應義塾大学出版会。